

(仮称)はぐくみの軸強化方針 検討会

2022年3月8日 第3回
札幌市

目次

策定及び検討会の進め方	P1
1. 策定の背景と方針の位置づけ	
1-1 対象エリア、計画期間、計画の位置づけ	P2
2. はぐくみの軸沿道まちづくりの理念と将来像	
2-1 はぐくみの軸全体の将来像	P3
3. ゾーンごとのまちづくりの方向性	
3-1 ゾーン区分の設定	P6
3-2 ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像	P7
4. 次年度以降の検討内容	
4-1 取組分野別施策展開の方向性	P15
4-2 次年度以降の進め方	P16
参考：第二回検討会での指摘事項と対応方針	P17
参考：はぐくみの軸全体の将来像 将来像修正経緯	P19

本日の論点（全体）

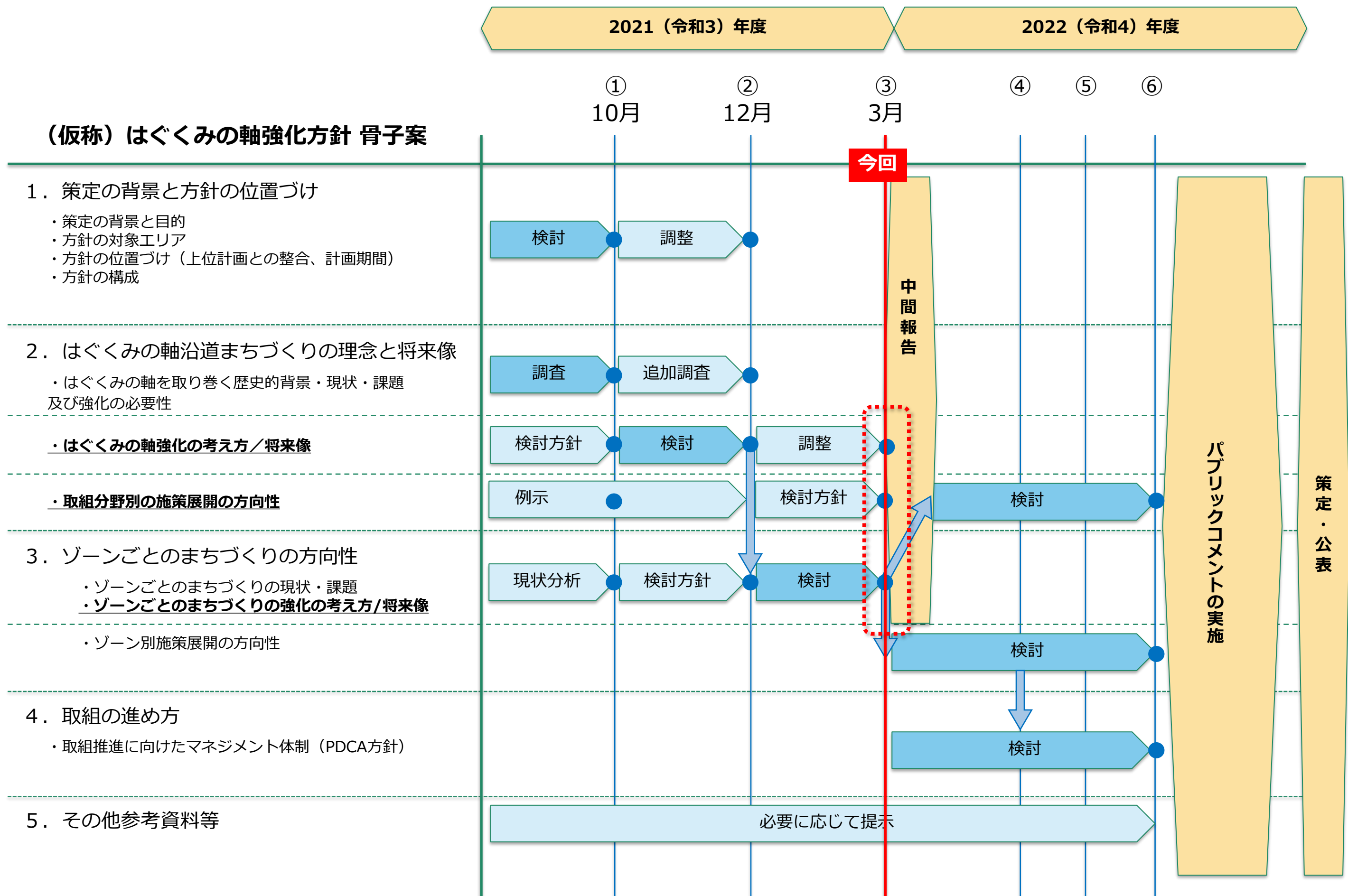
①はぐくみの軸全体の将来像について

- ・第2回検討会でご意見頂いた内容が、今回全体の将来像として反映出来ているか？ など

②ゾーン毎に目指すべき将来像について

- ・第2回検討会でご意見頂いた内容が、今回ゾーン毎の将来像として反映出来ているか？ など

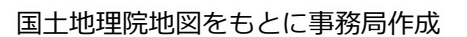
策定及び検討会の進め方



（下線太字：本日議題）

1-1 対象エリア、計画期間、計画の位置づけ

: 対象エリア



具體的取組

2-1 はぐくみの軸全体の将来像 —まちづくりの理念等—

(仮称) はぐくみの軸強化方針 策定の目的

都心の東西軸としての魅力を強化していくため、都市開発の気運の高まりに合わせて強化方針を策定し、大通公園などの地域特性を生かした沿道のまちづくりを促進していく。

そして次の100年に向け、時代の流れに柔軟に対応しながら新たな価値を創造し続け、札幌市民が世界に誇れる、魅力と活力にあふれる札幌都心の実現に寄与することを目指す。

はぐくみの軸沿道まちづくりの理念

150年間で育まれてきた大通の価値を再認識し
100年先の未来を“はぐくむ”

はぐくみの軸の今後を検討する上で特に重視すべき視点

象徴・発信

市民の誇り／都市のブランド

暮らし・交流

共生／健康・快適／
居心地がよく歩きたくなるまちなか

環境・強靱

みどり／脱炭素／防災

2-1 はぐくみの軸全体の将来像 —現状と課題のまとめ—

■行政計画から導き出される視点（上位計画）

（仮称）第2次まちづくり戦略ビジョン（策定中） ＜視点＞ - 生涯活躍できるまちづくり・共生社会の実現 - 都市のリニューアル・あらゆる危機への対応	第2次都心まちづくり計画 ＜視点＞ - 人口の減少・超高齢化社会 - 国内外からの投資を呼び込む - 札幌都心部ブランドの確立	（仮称）都心のみどりづくり方針（策定中） ＜視点＞ 都心の魅力をもつみどりの創出	札幌市総合交通計画 ＜視点＞ 人を中心とした安全で快適な交通環境の創出	都心エネルギープラン ＜視点＞ 都心の脱炭素化	札幌市景観計画 ＜視点＞ 世界に向けて都心の魅力を発信する優れた景観形成	等
---	---	--	---	---	--	---

■はぐくみの軸における歴史と現状分析

歴史性から導かれる象徴性

- 時代に合わせて姿を変えながら、札幌を支える基盤としての役割を果たしてきた



沿道建物の更新時期

＜現状の動向＞

- 大通沿道建物の更新時期が到来している
- 大通沿道建物の機能分布の変化が生じている

■周辺の観光資源等

重要文化財(国指定)



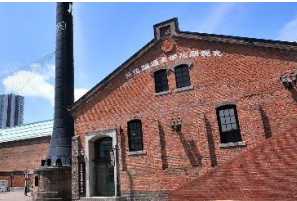
札幌市資料館



札幌市時計台



さっぽろテレビ塔



開拓使麦酒醸造所跡地

＜活かすべき強み＞

- 大通周辺には、景観・観光資源として価値が高いものが集積している

回遊性の高さを活かす／みどりの不足

＜現状・活かすべき強み＞

- 交通利便性が高く、地上-地下の回遊性が高い
- 大通公園周辺の自動車交通量は減少傾向となっている

＜解決すべき弱み＞

- ▲ 大通沿道街区で緑化空間が不足している
- ▲ 連続したみどりは東は創成川、西は札幌市資料館の端で途切れている
- ▲ 沿道建物と公園の一体感が不足している

公共的空間の不足

＜解消すべき弱み＞

- ▲ 沿道の敷地内で、誰もが利用可能な公共的空間が不足している
- ▲ 冬季の降雪などにより、通年の公共的空間の活用が難しい
- ▲ 大通公園のイベントの賑わいが、沿道に波及していない
- ▲ イベント時のみ大通公園を利用する市民が多く、憩いの場としての利用が少ない

■沿道の路上駐車

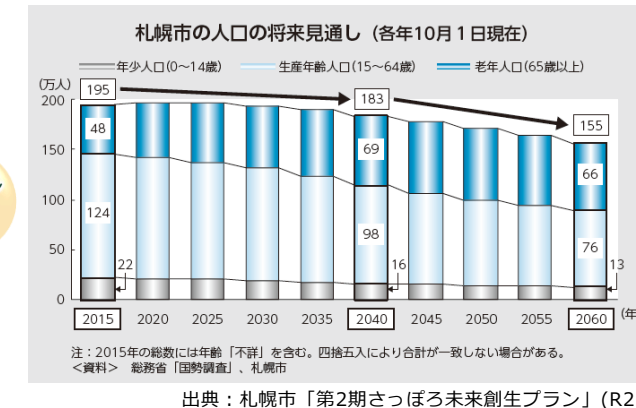


■社会潮流などから今後求められること

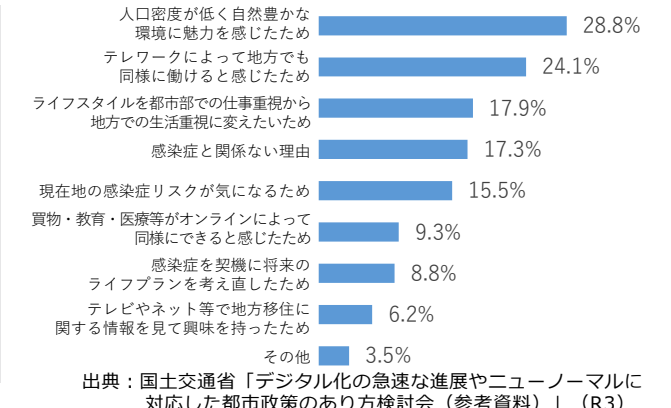
- 方針が、軸として一体感を持ったまちづくりの方向性を示し、周辺のまちづくりにも影響を与える役割を担う

・「人をひきつけ、住み続けたい魅力」の創出

■生産年齢人口の減少見通し

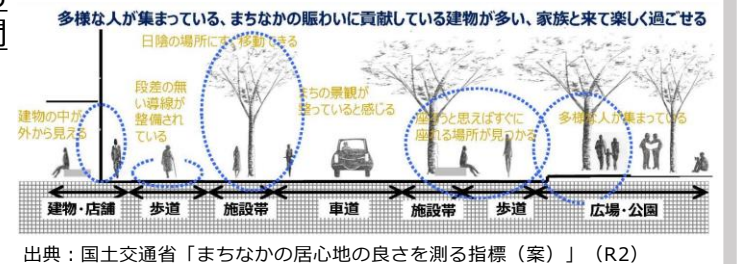


■地方移住への関心理由



- ・居心地がよく歩きたくなる、多様化するニーズに対応する開発の誘導や都市空間の活用
- ・居心地がよく歩きたくなる都市づくり

■居心地の良いまちなかの創出に向けた取組



- ・公共的空間と連動したまちづくり、脱炭素・強靱化の促進

■官民連携による公共的空間創出の取組



2-1 はぐくみの軸全体の将来像

- これまでの検討を踏まえ、軸全体で目指すべき将来像を整理した。
- 対象エリア全体の将来像を検討する上で重要な6つの取組分野（テーマ）を設定し、それぞれの項目に割り当てた。

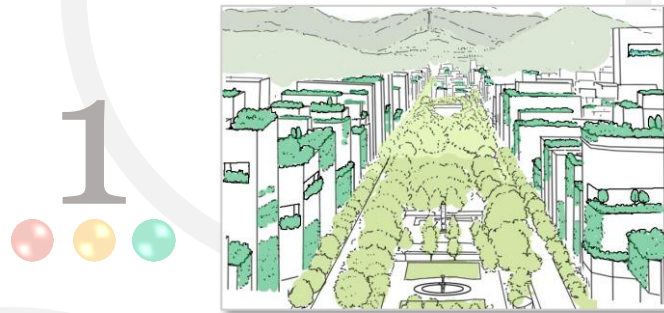
6つの取組分野：

- 土地利用
- 交通
- みどり・公園
- 景観
- マネジメント
- エネルギー・強靱・防災

- 上記6つの取組分野は、次年度以降に具体的な内容を検討する。

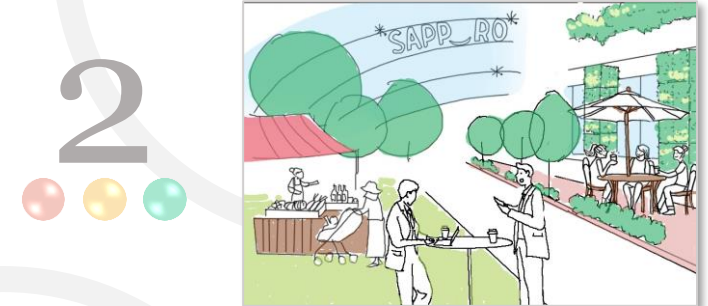
都心の象徴性が継承され
札幌のまちづくりを支える軸として
新しい都市文化・魅力・活力を生み出し続けている

土地利用 マネジメント 景観 みどり・公園



大通と沿道が一体となった
札幌を象徴する都市空間と
景観が形成され
札幌のブランド力向上をけん引し
世界から投資と人材を呼び込んでいる

土地利用 景観 マネジメント エネ・強靱・防災



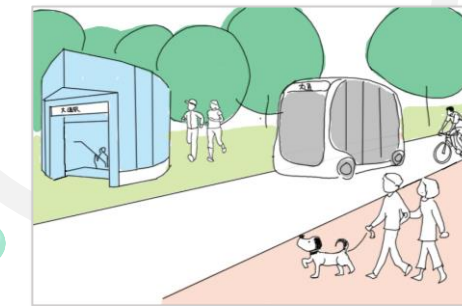
大通公園や沿道の公共的空間などが
全ての人々にとって居心地の良い場として愛され
そこでの憩いと交流が
北海道・札幌の魅力的なライフスタイルとして
国内外に発信されている

みどり・公園 景観 マネジメント



交通結節性の高さを活かし
時代に適応した交通手段と
歩行者が共存できる空間が形成され
移動の利便性と歩きたくなる楽しさが両立している

交通 みどり・公園



豊かで高質なみどりが
途切れることなく展開されるとともに
都心の脱炭素化に向けた取組や災害対策が進められ
うるおいがあり強靱な軸が形成されている

みどり・公園 エネ・強靱・防災



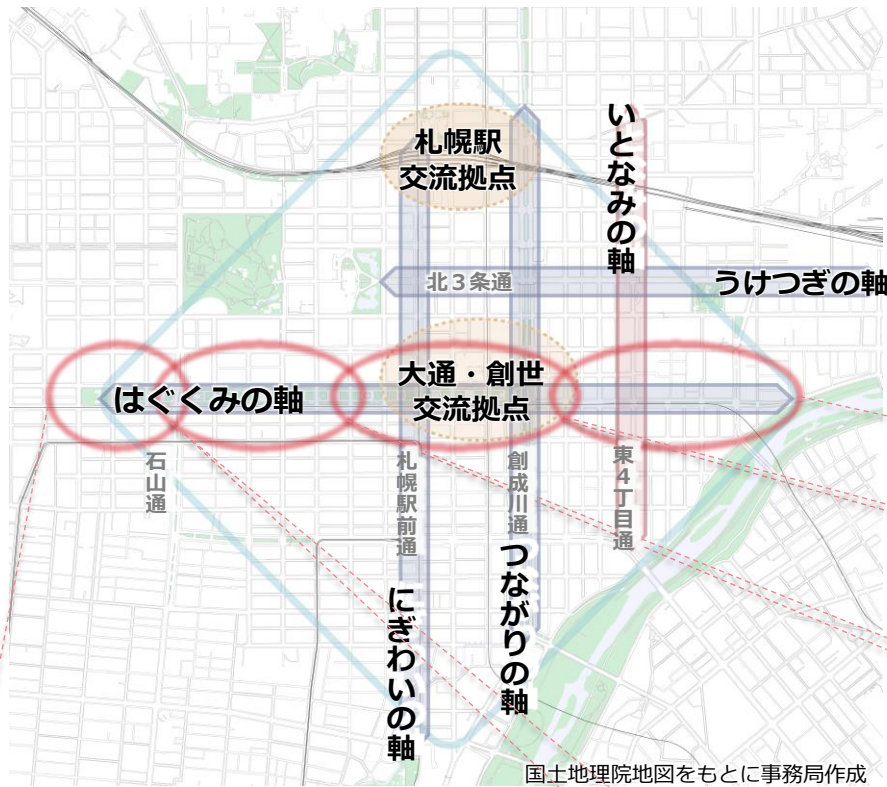
実験的な取組や
市民・企業・行政などの多様な主体の連携を通じて
時代の流れに柔軟に対応した
まちづくりが進められている

土地利用 マネジメント



3-1 ゾーン区分の設定

- ・ 課題整理や将来像の在り方を検討するため、現状の沿道施設の立地状況や第2次都心まちづくり計画の考え方などから、ゾーン分けを行った
- ・ ゾーンごとの特徴を踏まえながら、それぞれの魅力を高めていくことで相乗効果を生み出し、はぐくみの軸全体の価値を向上させていく



西Cゾーン

(概ねの位置:はぐくみの軸西端～石山通)

- 周辺を含めて文化芸術施設・歴史資源や集客交流施設が立地しているとともに、地下鉄駅・路面電車・バスの停留所が近接しており、交通利便性が高いゾーン

西Bゾーン

(概ねの位置:石山通～西6丁目)

- 多くの子どもが利用する大通公園の「遊び・イベントゾーン」を含み、沿道にはオフィス・集合住宅・ホテル・教育施設等が立地し、多様な土地利用となっているゾーン

西Aゾーン

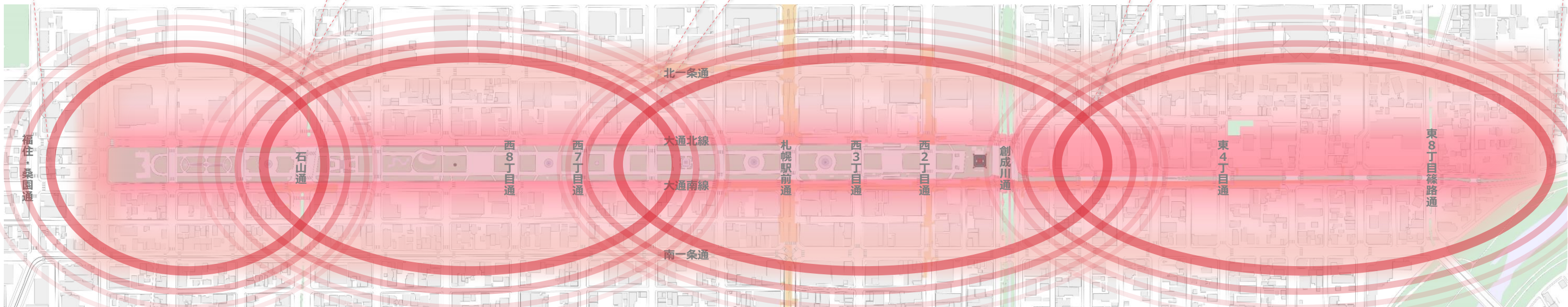
(概ねの位置:にぎわいの軸・つながりの軸と大通・創世交流拠点を含むエリア)

- 第2次都心まちづくり計画で「大通・創世交流拠点」として位置付けているほか、「都心強化先導エリア」「都心商業エリア」の一部を含んでおり、都心の中でもビジネス・行政・商業といった都市機能の中心的役割を担っているゾーン

東ゾーン

(概ねの位置:大通・創世交流拠点より東側)

- 共同住宅の建設が進んでいる一方で、公園や公共的空間が不足しており、また、青空駐車場といった低未利用地が多いゾーン



3-2 ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像

■ 強化の考え方（案）

育んできた価値と新しい価値が融合した
世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点をはぐくむ

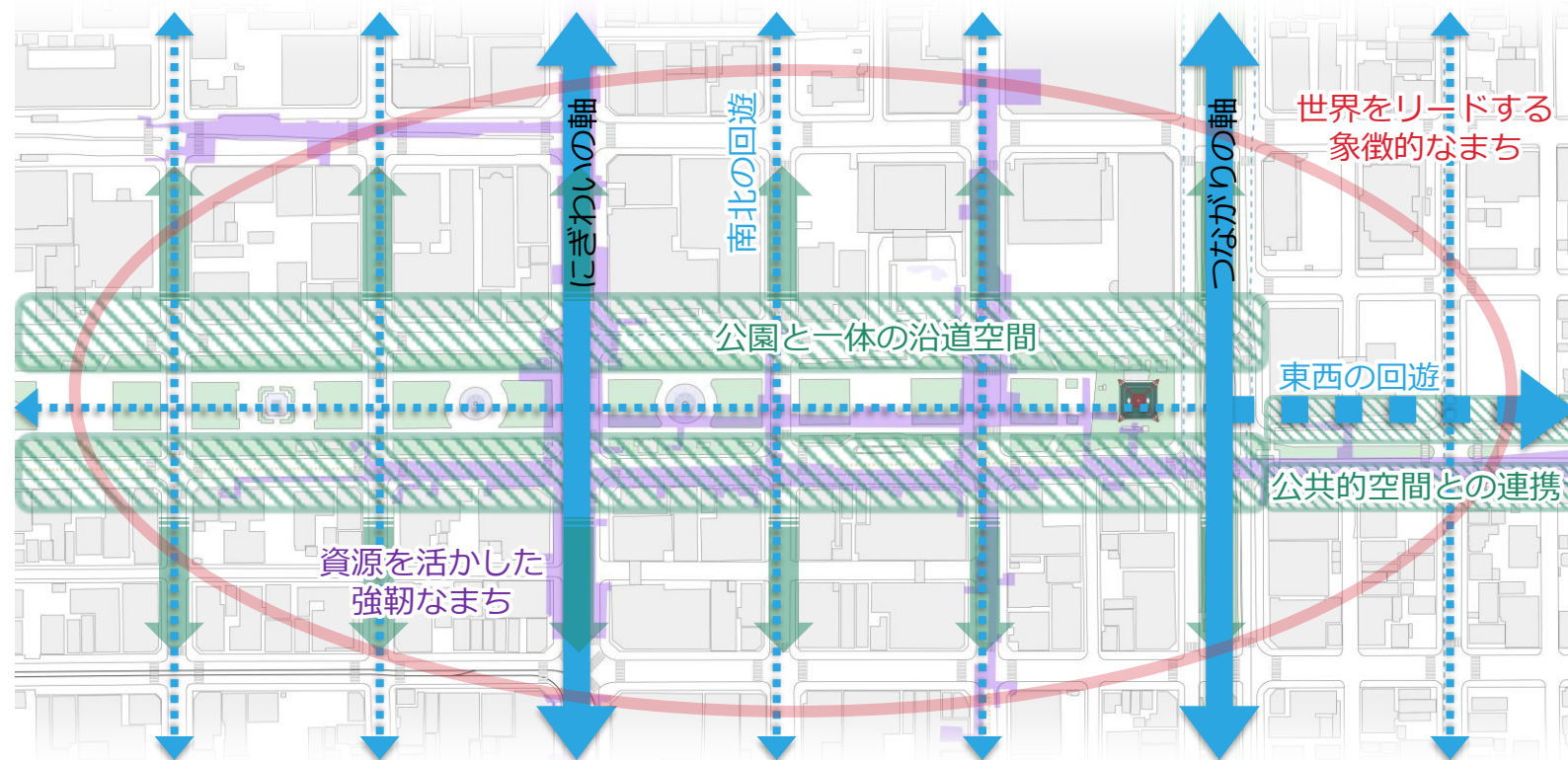
■ ゾーンの将来像（案）

【象徴性・拠点性】

沿道での高度な土地利用と都心の脱炭素化や強靱化に向けた先進的な取組、多様な機能の集積や複合化等を通じて、**札幌発の創造的ビジネスや魅力的なライフスタイルを世界に向けて発信する価値創造の拠点が、官民の連携により形成され、訪れた人々がその価値を体感している。**

【沿道の賑わい、公園との一体性】

沿道での機能更新に際して、大通に面して道路・公園空間や公共的空間との連携を促す賑わいや、大通公園の四季の潤いを感じる機能が導入され、**公園が周辺のまちと立体的につながる空間が形成されるとともに、沿道からさらに南北への賑わいのつながりが構築されている。**



【回遊性、公共的空間の連携】

歩行者にやさしい交通環境が整備され、**大通公園を起点としたまちの南北、および創成川を横断したまちの東西の回遊性を支える中心的なゾーンとなっている**

【防災性、脱炭素、強靱性】

大通公園や地下街等といった資源を活かした防災性の向上とあわせ、沿道建物において脱炭素化や強靱化につながる機能導入が進み、**環境にやさしく強靱で持続可能なまちづくりを先導するゾーンになっている。**

■ 将来像実現のために留意すべきゾーン特性

【○：強み ▲：弱み】

【象徴性・拠点性】 土地利用 マネジメント みどり・公園

- 札幌文化芸術劇場hitaruや札幌大通地下ギャラリー500m美術館など芸術・文化の拠点が立地している
- テレビ塔、札幌市時計台など札幌を象徴する景観資源が立地しているほか、噴水が大通公園の各街区を特徴づけている
- 北海道内各所と繋がるバスターミナル機能や市内各地への交通アクセスが充実している
- ▲ 札幌駅前の商業集積や郊外大型商業施設の増加に伴い、市民のニーズが変化している
- ▲ 築年数の経過した大規模ビルが多く、今後の機能の見直しを行っていく必要がある
- ▲ 大規模な都市機能更新といった投資を呼び込むための国際競争力強化に向けた方針が不足している
- ▲ 札幌を象徴する歴史資源として時計台が立地しているが、大通公園側とのつながりが弱い

【回遊性、公共的空間の連携】 交通 土地利用

- 地下鉄駅や路面電車・バスの停留場が近接しており、交通結節点になっている
- 地下歩行空間、地下街等が展開し、地下の回遊性を有する空間となっている
- 創成川通アンダーパス連続化事業に伴い創成川公園や創成川の東西市街地を繋ぐ道路が整備され、創成川以西から以東への人の流れを創出する基盤が形成されている
- ▲ 西側から繋がっている公園は創成川までで途切れており、創成川以東への連続性が途切れている
- ▲ 沿道から南北へ展開する回遊性が不足している

【沿道の賑わい、公園との一体性】

みどり・公園 景観 土地利用

- 地区計画や地域が主体となって策定したまちづくりガイドラインにより土地利用等の方針が示され、今後の機能更新が期待される街区がある
- ▲ 沿道と公園の一体性に欠け、低層部での沿道と公園の賑わいの連続が不足している
- ▲ 大通公園を中心とした区域は、景観計画重点区域、風致地区及び都市公園区域として、沿道建築物の位置、規模及び外壁の色彩、屋外広告物並びに敷地内の緑化等の基準があるが、より良好な景観形成に向けた検討の余地がある
- ▲ 路上駐車が多く、自転車通行空間をふさぐなどの支障が生じている

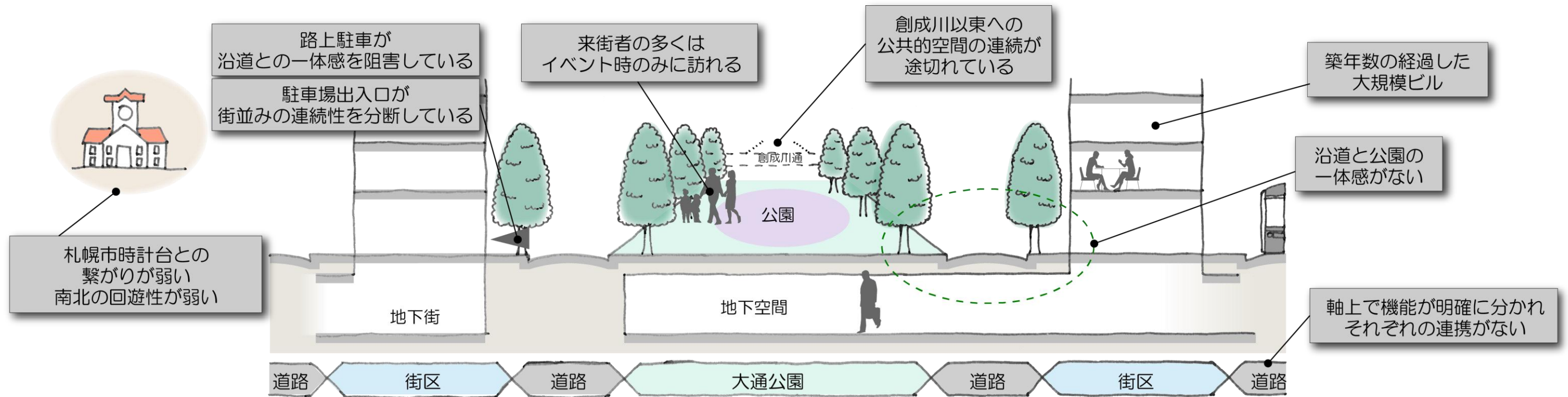
【防災性、脱炭素、強靱性】

エネ・強靱・防災 みどり・公園

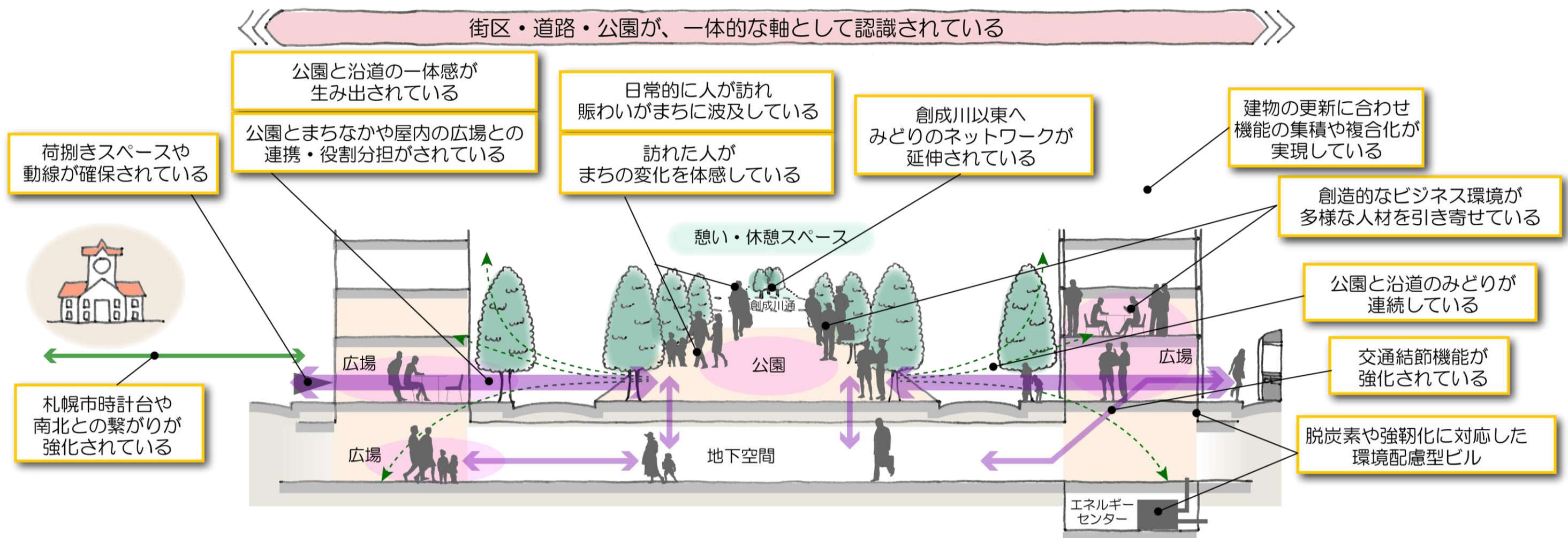
- 一時避難場所としての大通公園や一時滞在施設としての地下歩行空間等がある
- 面的なエネルギーネットワークの整備が進められている
- ▲ エネルギーネットワークを、沿道建物へさらに拡充していく必要がある

※図はエリア全体のイメージであり、特定の地点を指し示すものではありません。

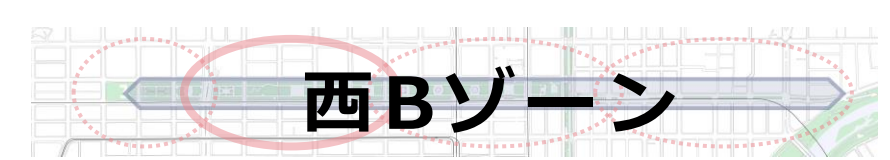
■ ゾーンの現状イメージ



■ ゾーンの将来像イメージ



3-2 ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像



■ 強化の考え方（案）

居住とビジネスが共存し、まちに開かれた沿道空間と大通公園に多世代が集う
都市の新しいライフスタイル・ワークスタイルをはぐくむ

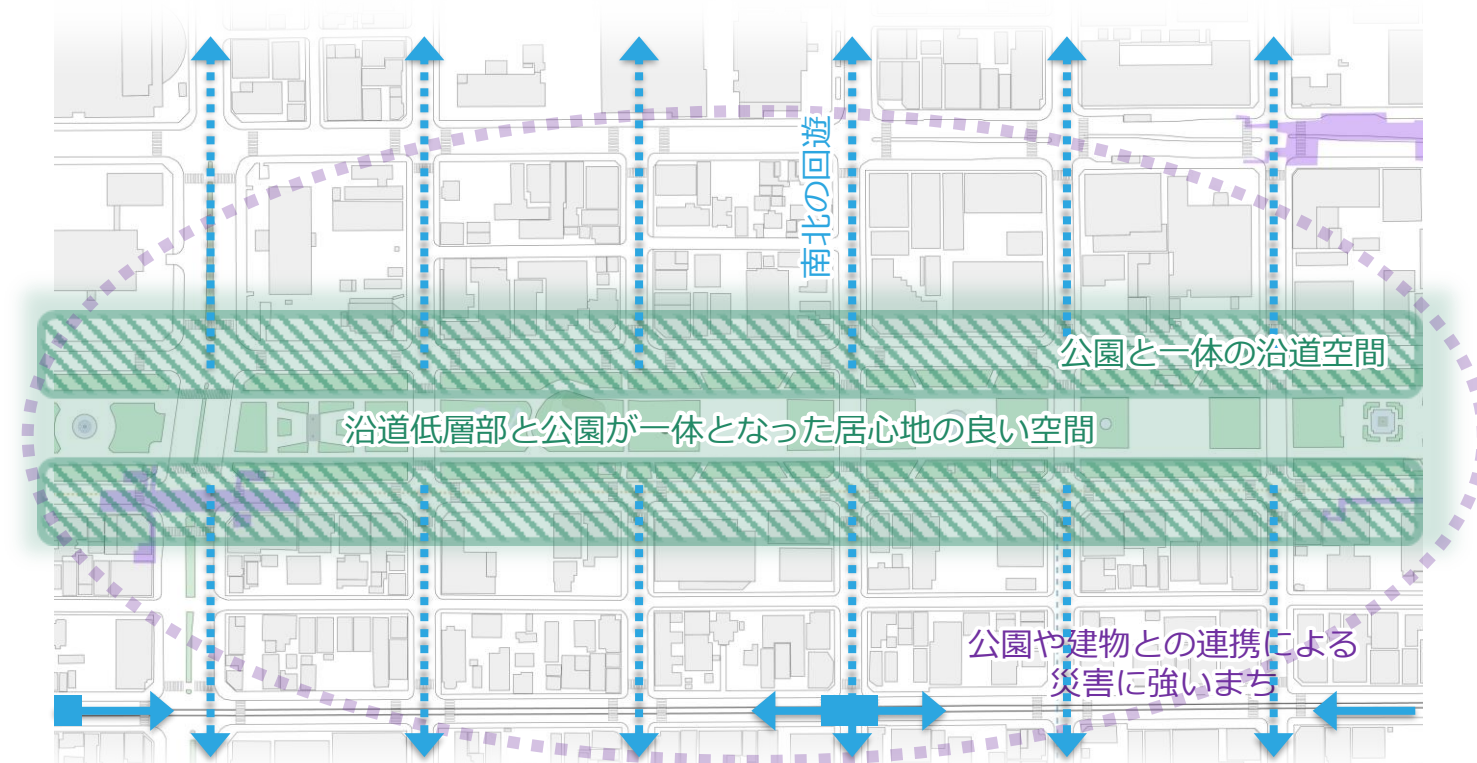
■ ゾーンの将来像（案）

【沿道と公園との一体性】

沿道低層部がまちに開かれ、大通公園の四季と公園との連続性を感じる居心地の良い空間になっているとともに、景観面でも沿道全体で一体感のあるまちなみが作られ、**居住者、来街者、働く人が都心のライフスタイル・ワークスタイルを享受している。**

【回遊性】

周辺に点在する都市機能や、市電電停などを起点とした歩行者のネットワークが形成され、**大通公園及び沿道を中心とした回遊性が強化されている。**



【防災性】

一時避難場所である大通公園の防災機能の向上や地域での取組などにより、**ゾーン全体が災害に強いまちになっている。**

【脱炭素・強靱性】

建替・リノベーション等に合わせて、**建物の環境性能強化や強靱化の取組が進んでいる。**

■ 将来像実現のために留意すべきゾーン特性

【○：強み ▲：弱み】

【沿道と公園の一体性】

土地利用 マネジメント みどり・公園 景観

- 共同住宅の建設や保育施設の整備が進み、都心居住の受け皿となっている
- 「遊び・イベントゾーン」では、子供連れや学生といった若い世代が集まり交流するスペースが生まれている
- 大通公園西8丁目は、雪まつりやYOSAKOIソーラン祭りなどの大規模イベント時のメイン会場として活用され、イベントスペースとして機能している
- 野外ステージは音楽イベントなどで活用され、文化・芸術機能の核として期待される
- ▲ 周辺の世帯数増加に伴い子供の人口も増加傾向にあるが、大通公園が、憩いと遊びの場として活用できる期間が十分ではない
- ▲ イベント時には、イベント非利用者に対する動線の対応が課題となっている
- ▲ 沿道低層部の機能が、公園内の機能と連携しておらず、公園とまちの一体感が感じられない
- ▲ 大通公園を中心とした区域は、景観計画重点区域、風致地区及び都市公園区域として、沿道建築物の位置、規模及び外壁の色彩、屋外広告物並びに敷地内の緑化等の基準があるが、より良好な景観形成に向けた検討の余地がある
- ▲ 沿道建物の低層部は賑わい醸成に資する用途となっていない
- ▲ イベント時には、イベント建屋背面により、大通公園と沿道のつながりが薄れる
- ▲ 路上駐車が多く、自転車通行空間をふさぐなどの支障が生じている

【回遊性】

交通 みどり・公園

- 市電の電停が複数面しており、大通から南側のエリアとの接続の起点となっている
- 北側には道庁赤レンガ庁舎、北大植物園といった象徴的な都市機能が位置している
- ▲ 東西線西11丁目駅～大通駅間の約750mの区間で地下での接続が無い

【防災性】

エネ・強靱・防災 みどり・公園

- 大通公園が一時避難場所として指定されている
- ▲ 沿道ビルは、築年数の経過などを踏まえても個別の建替え・利用継続が今後も見込まれ、防災への対応にはビル間での連携した取組が必要

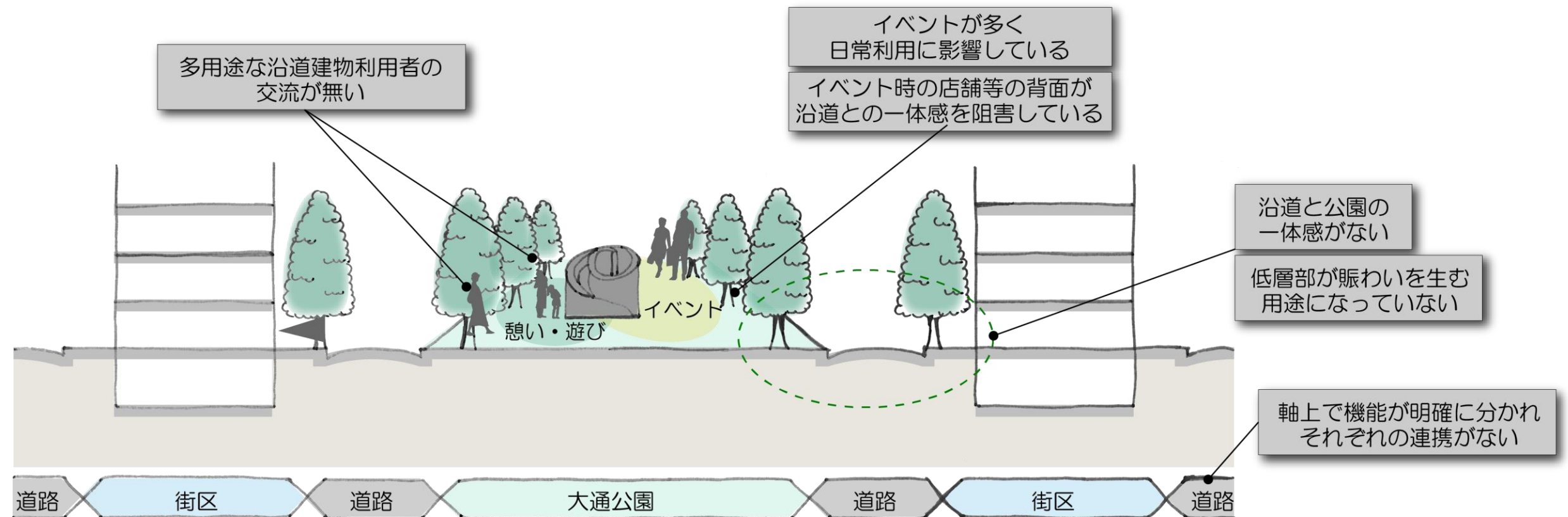
【脱炭素・強靱性】

エネ・強靱・防災

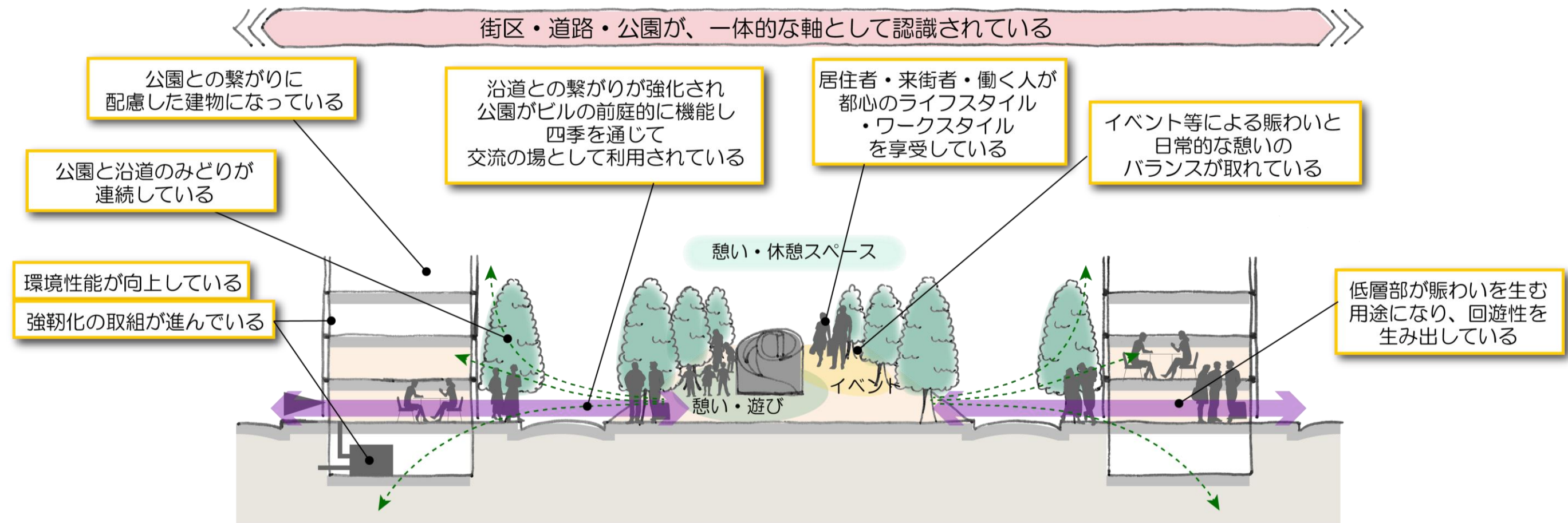
- ▲ 沿道ビルは、築年数の経過などを踏まえても個別の建替え・利用継続が今後も見込まれる。

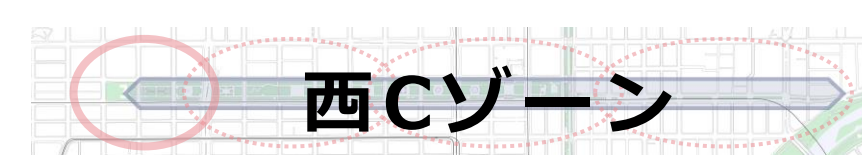
※図はエリア全体のイメージであり、特定の地点を指し示すものではありません。

■ ゾーンの現状イメージ



■ ゾーンの将来像イメージ





■ 強化の考え方（案）

都心西側の回遊拠点を形成し
美しいみどりや歴史・文化芸術を活かした多様な交流をはぐくむ

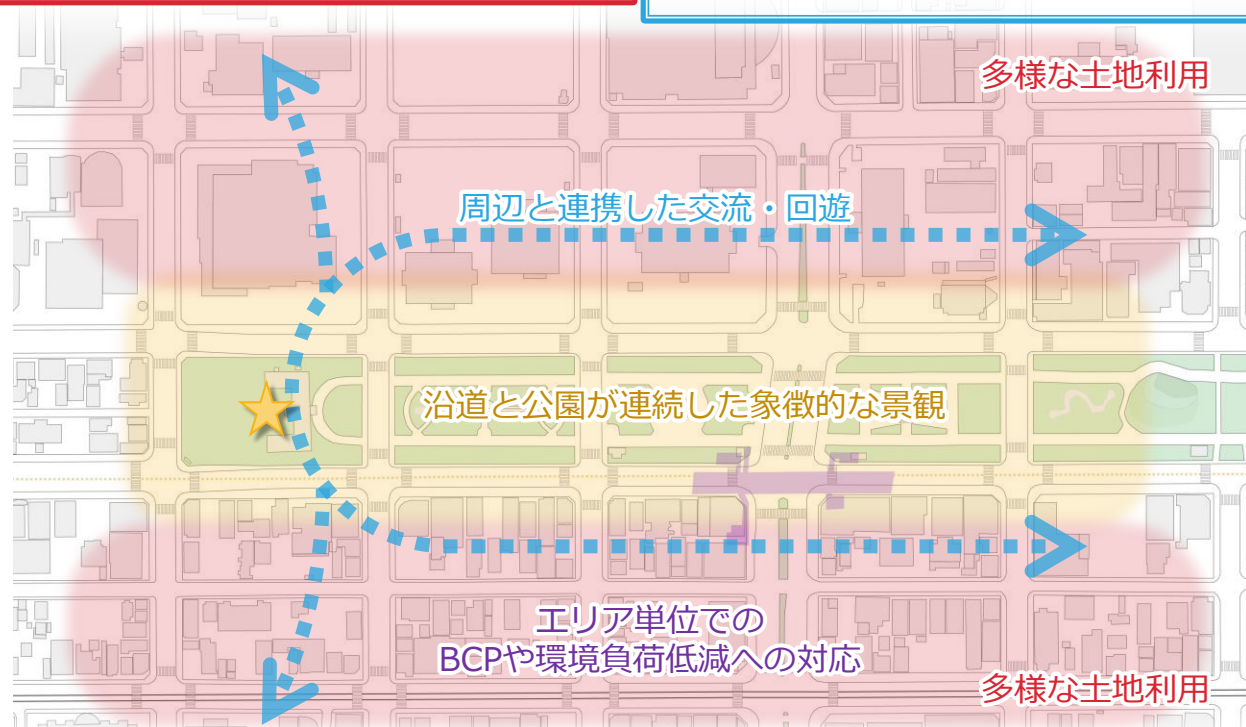
■ ゾーンの将来像（案）

【多様な土地利用、多様な都市機能】

大通沿道周辺の多様な規模のビルが様々なニーズに対応した創造的活動の受け皿となり、交流が活性化している。また、それらのビルが機能や設備の更新時に併せてエネルギー消費等に配慮した建替え・リノベーション等を通じて生まれ変わること、建物の価値を高めている。

【都心西側の回遊拠点】

国の重要文化財である札幌市資料館や周辺に立地する知事公館・北大植物園等、周辺とのみどり・公園のネットワークが形成され、これらを活かした回遊性の向上・人材の交流や、高い交通利便性を活かした集客機能の集積などにより、都心西側の交流・回遊拠点となっている。



【歴史と文化が漂う風格ある景観】

札幌市資料館とサンクガーデンが一体となった歴史と文化が漂う空間となり、さらには沿道でも市民交流を生み出す芸術的活動の展開や、緑化の推進、公共的空間の活用が図られ、都心西側を象徴する風格のある景観が形成されている。

【防災性・脱炭素・強靱性】

敷地規模の大きな用地における建替え・リノベーション等に際して、周辺の用途の多様性を活かしたエリア単位でのBCPと建物の環境性能強化、強靱化の取組が進んでいる。

■ 将来像実現のために留意すべきゾーン特性

【○：強み ▲：弱み】

【多様な土地利用、多様な都市機能】

土地利用

- 多様な用途の建物が集積し、敷地規模も大小様々であり、多様な都市機能を受け止める土台が構築されている
- 大通公園の南北においてもそれぞれ違う特色をもつ都市機能が集積している
- ▲ 地域主体のまちづくりなど、一体感をもったまちづくりの動向が無い。
- ▲ 沿道建物の低層部は、賑わい醸成に資する用途となっていない
- ▲ 建物規模が大きく、業務・宿泊など多様な機能集積が見られるが、エネルギー利用の効率化に係る方針がない

【都心西側の回遊拠点】

交通 みどり・公園 土地利用

- 中央区役所などの公共施設、文化芸術施設、札幌市資料館などの歴史的建造物・景観資源のほか、集客交流施設が複数立地している
- 知事公館や北海道立近代美術館などの緑のかたまりに近接している
- 地下鉄駅、路面電車・バスの停留所が近接しており、交通利便性が高い
- ▲ 大規模な公有地が公園に面して立地しているが、駐車場利用等により公園とまちの一体感が薄い

【歴史と文化が漂う風格ある景観】

景観 みどり・公園 土地利用

- 札幌市資料館の前にはサンクガーデンが広がる美しい空間があり、都心西側へのさらなる人の呼び込みが期待される
- ▲ 札幌市資料館を眺める視点場が少ない

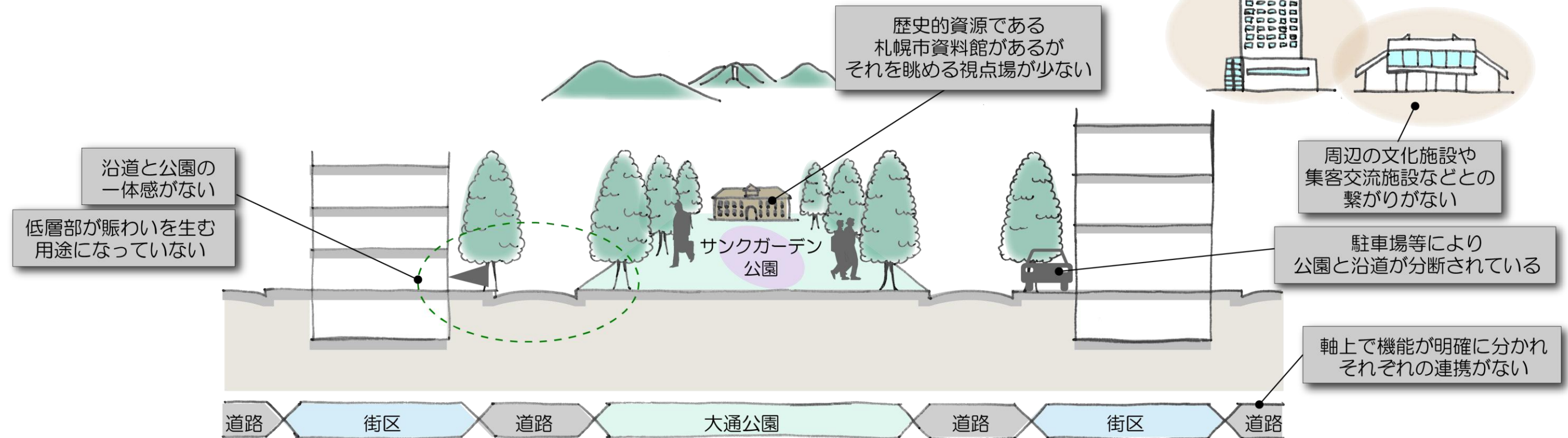
【防災性・脱炭素・強靱性】

エネ・強靱・防災 マネジメント

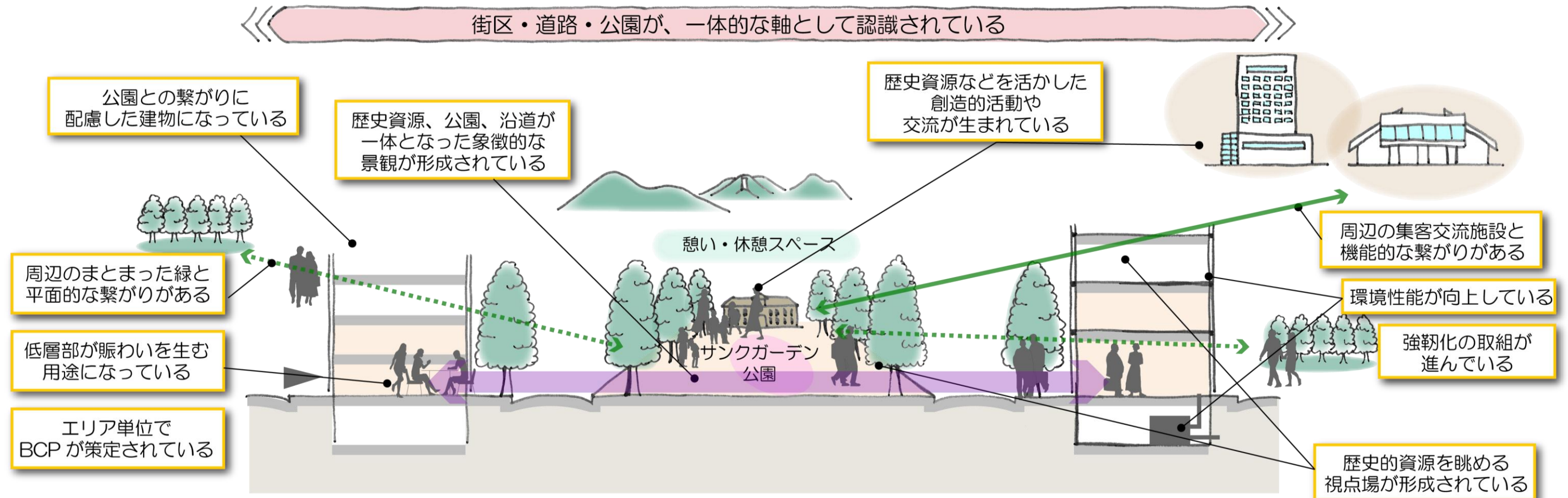
- ▲ 北海道／札幌の重要な公共拠点施設が立地しており高い防災性が求められるが、エリアとしてのBCP対策はない

※図はエリア全体のイメージであり、特定の地点を指し示すものではありません。

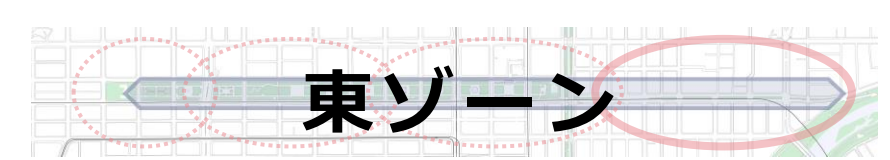
■ ゾーンの現状イメージ



■ ゾーンの将来像イメージ



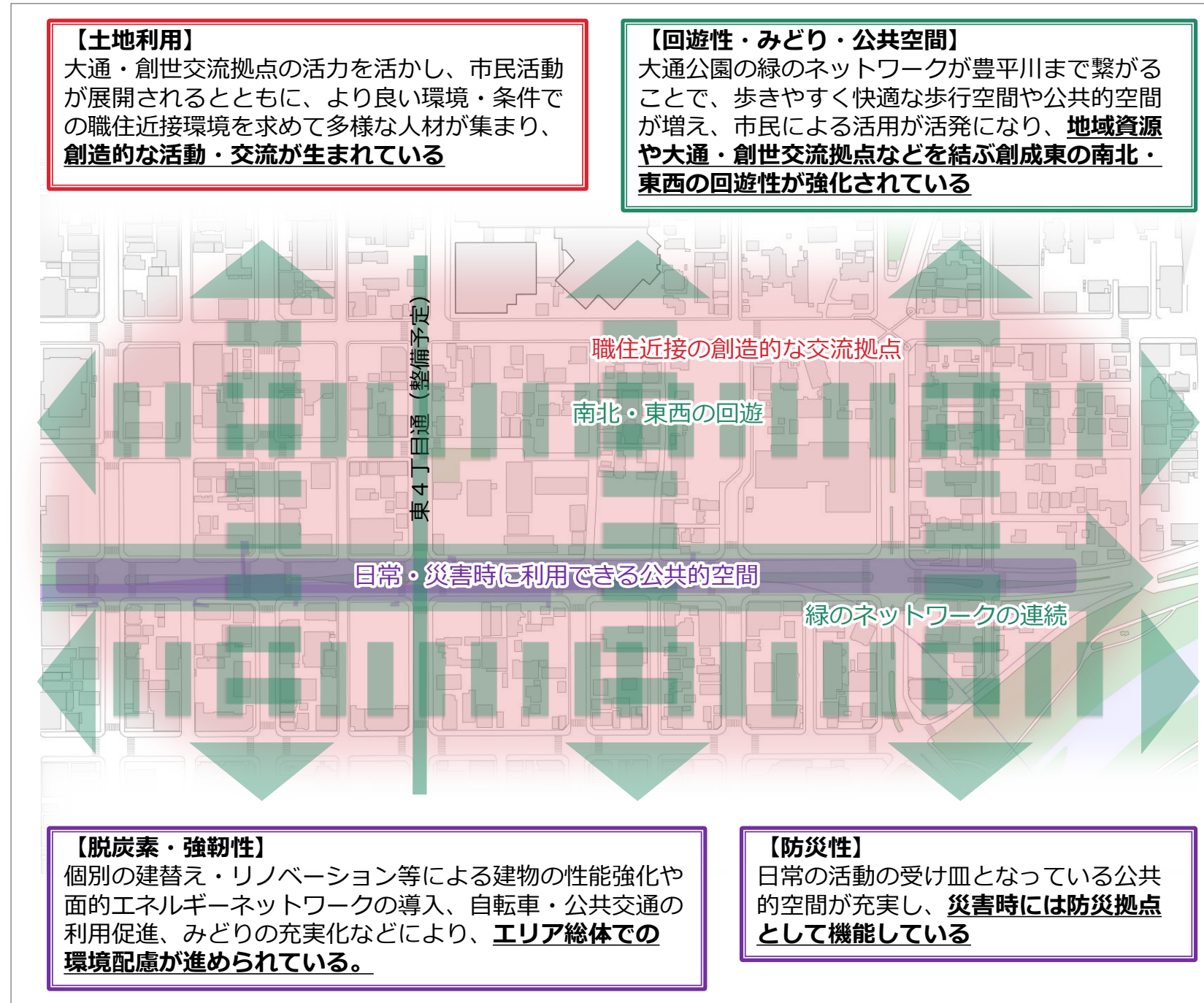
3-2 ゾーンごとのまちづくりの強化の考え方・将来像



➤ 強化の考え方（案）

創成東地区の資源と創成川以西の活力を活かした
創造性豊かな職・住環境と人にやさしく歩きたくなるまちなかをはぐくむ

■ ゾーンの将来像（案）



■ 将来像実現のために留意すべきゾーン特性

【○：強み ▲：弱み】

【土地利用】

土地利用

- 低未利用地が多く今後の土地利用転換が期待される
- 創成川西側と比較して地価水準が低く、賃料負担力に捕らわれない機能導入が可能である
- 共同住宅の建設や保育施設の整備が進み、都心居住の受け皿となっている

【回遊性・みどり・公共空間】

みどり・公園 交通 土地利用 マネジメント 景観

- 地下鉄コンコースが大通東5丁目まで伸びている
- 東4丁目通の整備により、地域内の南北の歩行環境の向上が図られる予定である
- サッポロファクトリーや二条市場などの地域資源がある
- 民間団体や行政により、イベント開催や実証実験など、公共空間を活用し、まちの魅力・活力を高めていく試みがなされている
- 豊平川において、河川区域の利活用を目指した取組が進められている
- ▲ 駐車場の出入口が沿道に多数存在している
- ▲ 青空平面駐車場などが多い一方で公園が少なく、公共的空間や緑が不足している
- ▲ 周辺の世帯数増加に伴い子供の人口も増加傾向にあるが、遊びに利用できるスペースが充分ではない
- ▲ 近接する歴史資源を活かすなど、景観的な視点からも方向性を位置付けることが望まれる

【脱炭素・強靱性】

エネ・強靱・防災

- 都心エネルギープランで、小規模な建物を含めて都心にふさわしい先進的な取組により低炭素化を推進するエリアとして位置づけられている
- 都心エネルギープランで、熱供給ネットワーク促進エリアとして、将来的に面的なエネルギーネットワークを構築するエリアとして位置づけられている

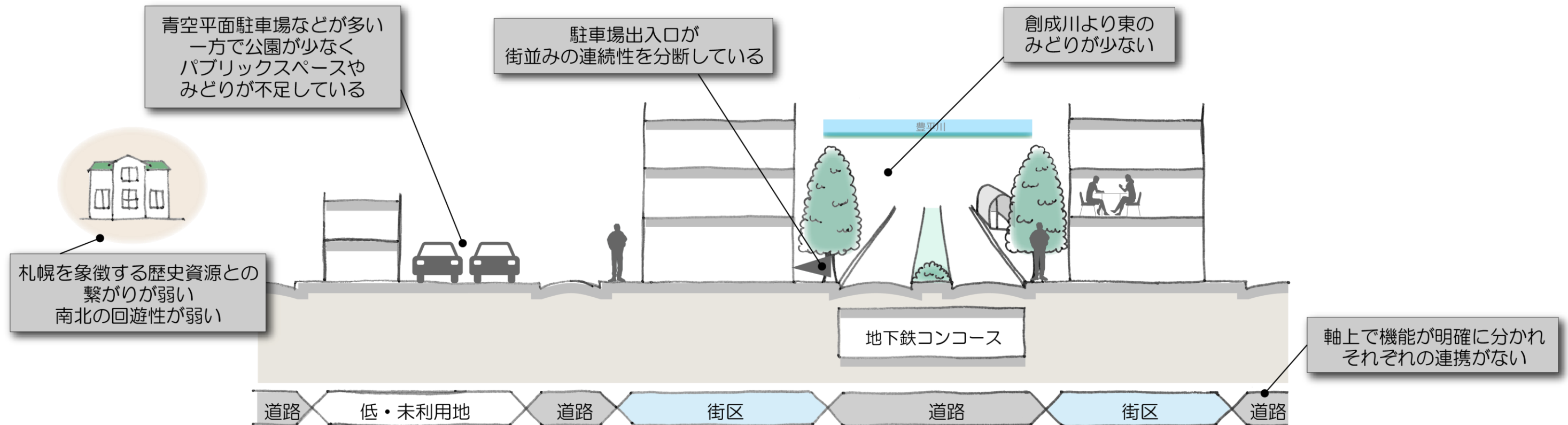
【防災】

エネ・強靱・防災

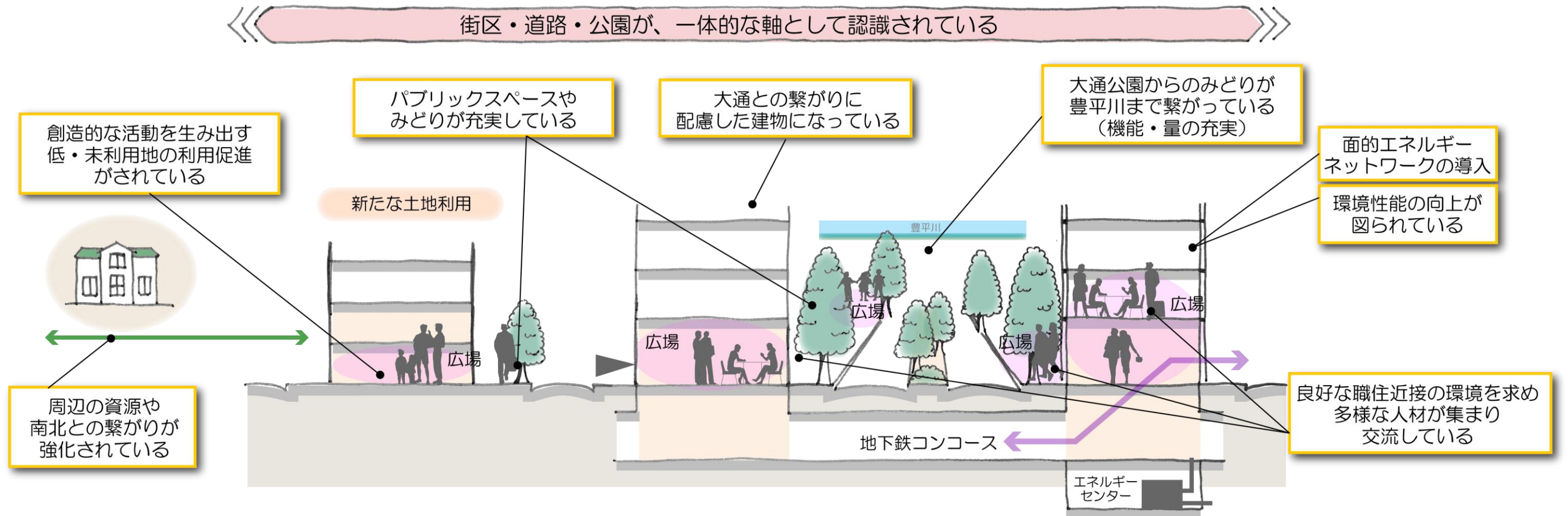
- 中央小学校が基幹指定避難場所となっている
- ▲ 安全確保計画に定められている一時滞在施設等がバスセンター前駅の地下鉄コンコースのみである

※図はエリア全体のイメージであり、特定の地点を指し示すものではありません。

■ ゾーンの現状イメージ



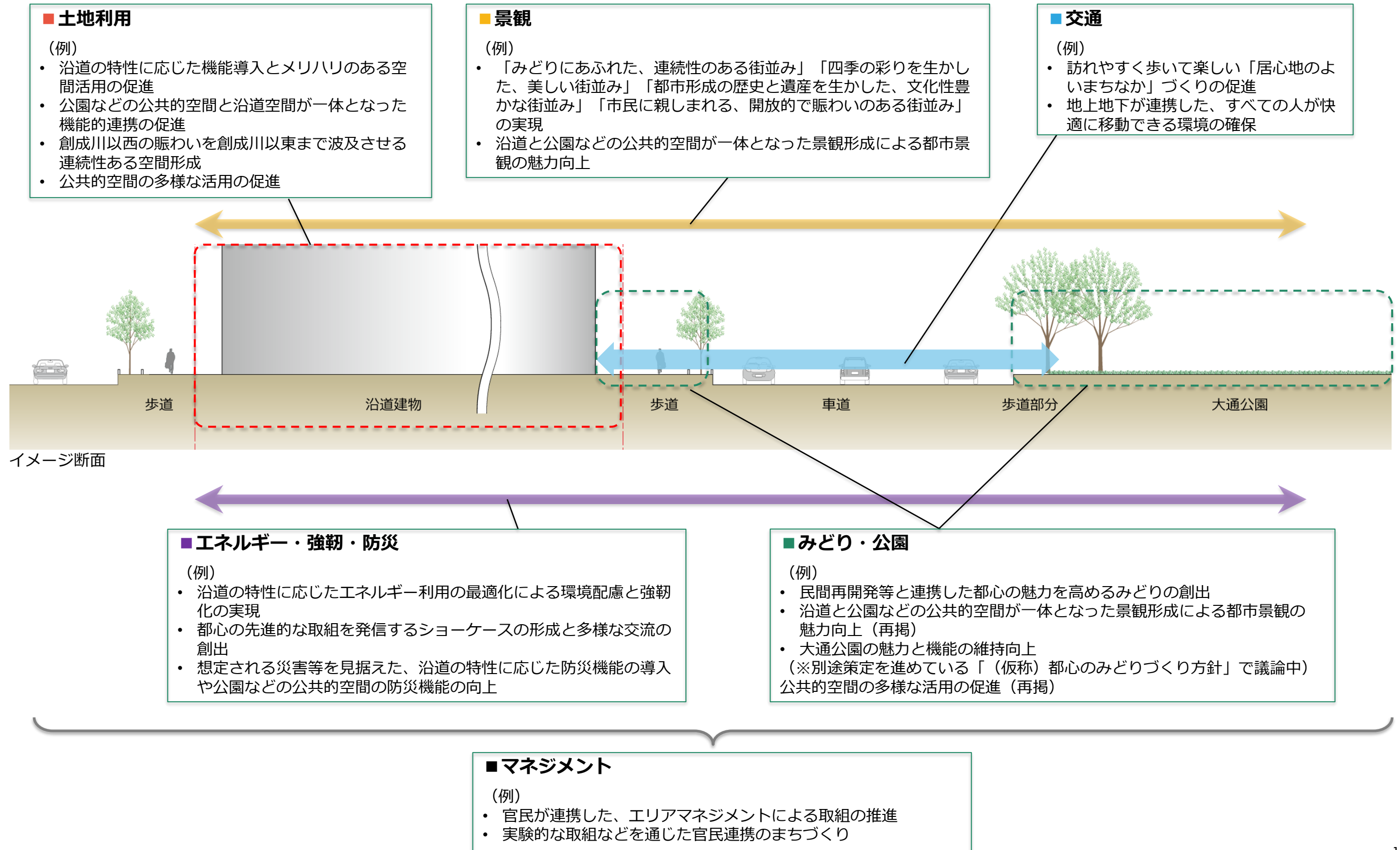
■ ゾーンの将来像イメージ



4-1 取組分野別施策展開の方向性

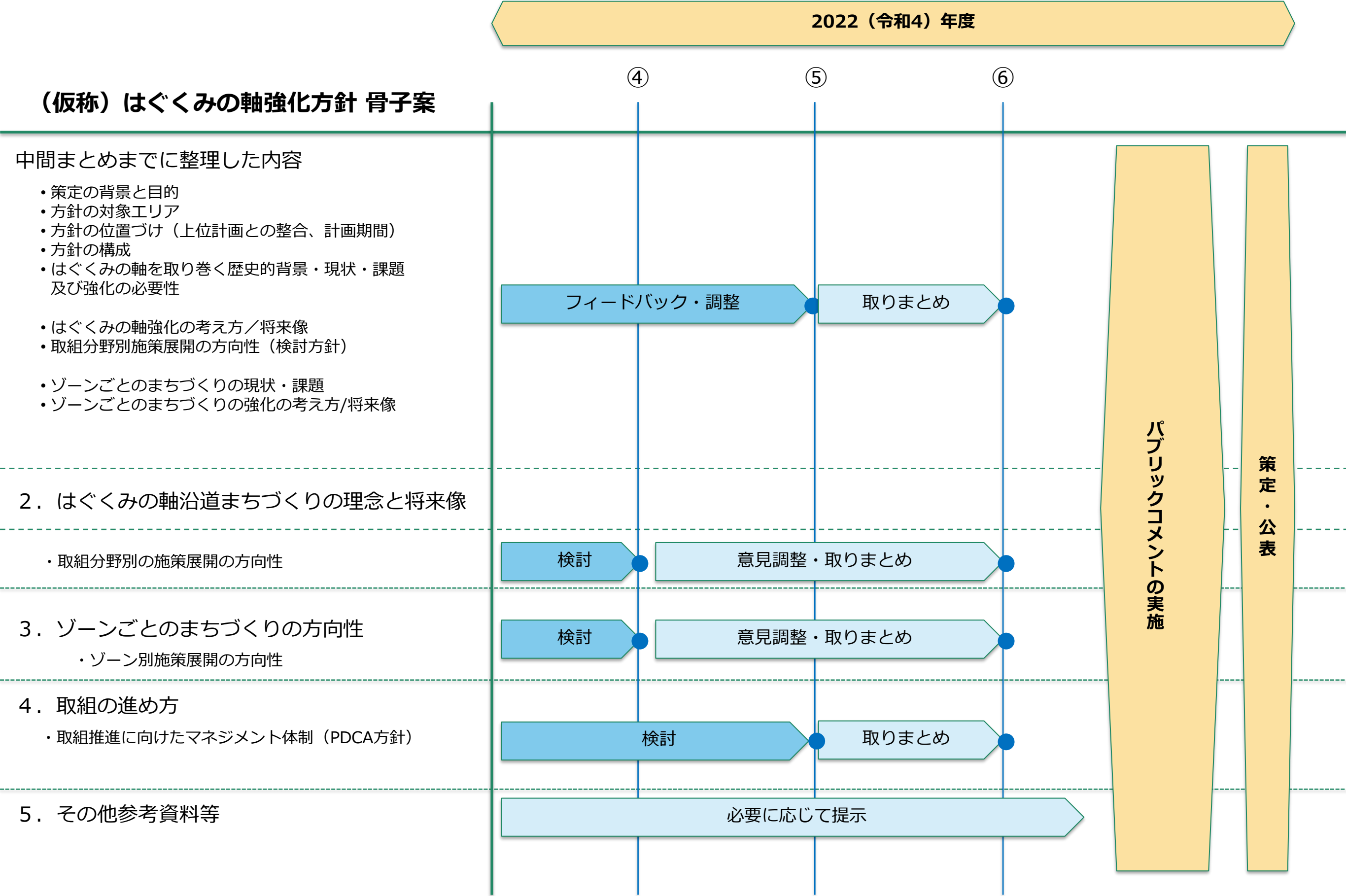
- 対象エリア全体の将来像を検討する上で重要な6つの取組分野（テーマ）ごとに目指すべきまちづくりの方向性を整理した
- 次年度以降、具体的な内容の検討を行う。

6つの取組分野： ■土地利用 ■景観 ■交通 ■エネルギー・強靱・防災 ■みどり・公園 ■マネジメント



4. 次年度以降の検討内容

4-2 次年度以降の進め方



上記予定は現時点で事務局で想定しているものであり、今後の関係者調整の中で変更となる可能性があります。

参考：第二回検討会での指摘事項と対応方針

対象ゾーン (事務局振り分け)		no.	テーマ (6つの取組分野のうち 主なもの、その他)	意見の要約 (事務局解釈)	対応方針
全 体		1	みどり・公園	大通公園の役割をわかりやすく示すため、現状の公園と市民との繋がりを把握したうえで将来像を描くべき	(P4) 現状の課題とまとめに現状の分析を記載(左側の枠、最下段)
		2	その他	具体の空間像がイメージできる事例等があるといい	(P5) 全体の将来像にイメージイラストを追加
		3	その他	ゾーン別に考えるとところと全体で考えるとところの整理が必要、ゾーン毎の広がりもそれぞれ違って良いのでは	(P3-14) 全体とゾーン毎に分けて将来像を整理
		4	その他	個人の活動を重視した空間の検討が必要	取組分野別施策展開の方向性の中で検討
		5	土地利用	都市機能の複合化・多層化を仕掛けるべき	
		6	エリアマネジメント	最終的な将来像をイメージした上で、実証実験の実施など、そこに向かうステップを検討する視点が必要	
		7	土地利用	官民連携の方策や建物規模による活用の仕方を検討すべき	
		8	その他	冬季のアクティビティを促進するための取組が必要では	
		9	景観	街並みを夜景照明でメイクアップできるとよい	
		10	エネルギー・強靱・防災	脱炭素の記載方針を再整理すべき	
		11	みどり・公園	景観的な方針を整理すべき	
		12	交通	自転車通行帯の在り方を考える必要あり	
		13	みどり・公園	大通北線・大通南線の広場化ができるといい	
		14	景観	建物低層の壁面にあえて凹凸をつける事で魅力向上を図ってはどうか	
		15	みどり・公園	大通公園内設えや植栽、ファニチャーについて見直す必要あり	みどりづくり方針の中で検討
		16	みどり・公園	コスト等を踏まえた緑化に取り組みやすい仕組みが必要	
西 ゾ ー ン	共 通	17	交通	自転車通行帯を単体の空間として設ける事などを考える必要がある。	取組分野別施策展開の方向性の中で検討
		18		大通に対して自動車出入口を設けない等の取組が必要	
		19		段階的に道路再編を検討し、公園と沿道のつながりを強化していけるといい	
		20	土地利用	新たな公共空間の使い方にチャレンジする必要がある。公共はそれが実行しやすい環境を整えてほしい	みどりづくり方針の中で検討
		21	みどり・公園	大通公園の南北の木々が大通公園の端を印象付け、一体感にとってはマイナス要因になっている	
	A	22	土地利用	市民がまちの変化を体感するリーディングエリアになるべき	(P7) ゾーンの将来像(案)に追記（象徴性・拠点性）
		23	土地利用	既存の開発と併せた検討をすべき	(P7) 将来像実現のために留意すべきゾーン特性に記載あり
		24	交通	回遊の表現を各場所に適した表現に修正すべき	(P7) 上位計画に位置づけのある通り（にぎわいの軸・つながりの軸）を強調。注釈にてイメージである旨追記
		25	土地利用	中高層・地下も含めて立体的に公園との一体性を考えるべき	(P7・8) ゾーンの将来像(案)、ゾーンの将来像イメージに追記（【沿道の賑わい、公園との一体性】）
		26	エリアマネジメント	官民連携で将来像を議論し、魅力を作り出していくべき	取組分野別施策展開の方向性の中で検討
		27	エリアマネジメント	地域のまちづくり活動との連携とるべき	
		28	みどり・公園	壁面緑化等による特徴的な景観形成があるとよい	
		29	交通	交通について、駐車場の考え方や歩道のあり方を議論していくべき	
		30	土地利用	市役所本庁舎周辺街区の今後の在り方の議論も意識すべき	
		31		テレビ塔基壇部による創成川を挟んだ東西の空間の分断	
		32	みどり・公園	メリハリのある緑化とすることが大事	みどりづくり方針の中で検討
		33	みどり・公園	長期的なビジョンで大通公園の連続化を描くことはできないか	

参考：第二回検討会での指摘事項と対応方針

対象ゾーン (事務局振り分け)		no.	テーマ (6つの取組み分野のうち 主なもの、その他)	意見の要約 (事務局解釈)	対応方針
西 ゾ ー ン	A、B	34	みどり・公園	多様な緑化手法を、敷地の規模や機能に応じて選択できるメニュー的なものの提示が必要	みどりづくり方針の中で検討
	A、B、東	35	土地利用	色々な広場の在り方を見本市のように見せられるといい	取組分野別施策展開の方向性の中で検討
	B	36	土地利用	イベント中心からライフスタイル中心へと、まちの在り方の転換が必要になってきている	(P9) 強化の考え方を修正
		37	土地利用	ゾーン特有のキーワードが示せていない	
		38	土地利用	都心居住とビジネス関係が混在する特性を活かして新しいライフスタイルを楽しめる場、という位置づけがあるのでは	
		39	その他	何を優先して将来像を考えるかが重要	取組分野別施策展開の方向性の中で検討
		40	土地利用	低層部は切り分けて検討したい	
		41	その他	施策展開について、もう少し広い視野で検討する必要がある。	
		42	エリアマネジメント	市民や来街者との多様な交流をマネジメントする仕組みも必要	
		43	その他	人が増えることによる影響も考慮したい	
		44	交通	路面電車との接続性、繋がり強化	
		45	景観	高さの考え方を明確にすべき	
		46	みどり・公園	イベントの染み出しの為プレハブなどのコントロールが必要	みどりづくり方針の中で検討
	C	47	土地利用	西Cゾーンを核とした広がりイメージして検討をすべき	(P11) ゾーンの将来像(案)に追記(【都心西側の回遊拠点】)
		48	土地利用	北側、知事公館・近美等とのつながりを位置付けてはどうか	(P11) ゾーンの将来像(案)に追記(【歴史と文化が漂う風格ある景観】)
		49	土地利用	南側をリノベ拠点や市民も参加できるアート場としてはどうか	取組分野別施策展開の方向性の中で検討
		50	土地利用	土日の閑散の解消の為にもアートなまちになるのは良い	(P11) ゾーンの将来像(案)の図中矢印にて表現
		51	土地利用	中央区役所の建て替えを踏まえ、南側にも広い視野で検討をする必要あり	(P11) ゾーンの将来像(案)に追記(【歴史と文化が漂う風格ある景観】)
		52	土地利用	文化芸術について社会包摂的な視点も含めて取り組めると面白い	取組分野別施策展開の方向性の中で検討
		53	その他	西Cゾーンは実験的なエリアにできるポテンシャルあり	
		54	土地利用	大規模な公有地が公園に面しているという特徴を生かしていくべき。	
		55	景観	資料館から山並みの間の建物もコントロールしていく必要あり	
東 ゾ ー ン		56	交通	東四丁目線の表現を修正してほしい	(P13) 直線に変更した上で「(整備予定)」と追記
		57	交通	場所に適した回遊性の矢印の表現としてほしい	(P13) 当該平面イメージは概念を表すものであるため、よりエリアを絞らない概念的な表現に修正し、注釈を追加
		58	みどり・公園	方法は公園自体の延長にとどまらず、機能や量など何らかの方法で緑のネットワークを繋げていくといい	(P14) ゾーンの将来像イメージに説明を追加
		59	土地利用	駐車場等を若者チャレンジの場などとして提供する仕組みが出来ると良い	取組分野別施策展開の方向性の中で検討
		60	交通	道路の工夫により、豊平川までの自転車・歩行者の連続性を強化する事も必要	
		61	交通	歩行者の為の道路空間の再編の取組が必要	
		62	土地利用	マンションの公開空地について、望ましい在り方を示す必要あり	
		63	土地利用	土地区画整理事業等を活用し、ゆとりのある空間を増やしてはどうか	
		64	景観	創成東にも高さの規制を設ける必要あり	

参考：はぐくみの軸全体の将来像 将来像修正経緯

- 第2回検討会では、第1回で頂いたご意見を踏まえ、第1回で掲げた将来像に一部説明を加えたものをご提示しました。

- 第3回検討会では、第2回で頂いたご意見を踏まえ、新たな項目や文言の追加等を含めた全体の再整理を行いました。

